

**NEWS RELEASE** www.jogmec.go.jp

独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構

問合せ先： 石炭開発部石炭技術課 佐藤 TEL:03-6758-8002  
 広報担当： 総務部広報課 乾 TEL:03-6758-8106

## 平成 27 年度モザンビーク石炭専門家派遣研修の終了 ～モザンビーク共和国の人材強化に貢献～

JOGMEC(本部:東京都港区、理事長:河野博文)は、10月23日(金)、マプト市にて現地派遣研修に係る閉講式を開催し、今年度の研修を終了致しました。

モザンビーク石炭産業人材育成事業石炭専門家派遣研修は、2012年10月に日本とモザンビーク共和国の両政府が合意した“石炭産業発展5か年プラン”を具現化するため、JOGMECが2014年7月に同国エネルギー・鉱物資源省(MIREME)と署名交換した協定書に基づき実施しているものです。

モザンビーク石炭産業人材育成事業は2014年度より実施しており、これまでにモザンビーク技術者18名を日本へ招聘するとともに、2014年度は17名に対して現地研修を実施してきました。今回の現地研修は昨年に続き2回目の実施で、総計25名が参加しました。

今回の研修では、同国石炭開発事業に本格的に取り組む地質技師および技術者に対して石炭開発に必要なリモートセンシング技術、探査技術、炭量評価をはじめとする経済性評価、世界の石炭需給動向に関する知識取得を目的とし、研修の拠点をボツワナリモートセンシングセンター、テテ州Revuboe炭鉱プロジェクトサイトおよびMoatize炭鉱ならびにエドアルド・モンドウラーネ大学(マプト市)に移し、3コースの研修を実施致しました。

コース名	期間	参加研修生	場所
1)リモートセンシング研修	10月4日～ 10月10日	14名	JOGMEC ボツワナリモートセンシングセンター
2)フィールド研修	10月12日～ 10月17日	14名	テテ州Revuboe炭鉱プロジェクトサイトおよびMoatize炭鉱
3)座学研修	10月19日～ 10月22日	24名	マプト市エドアルド・モンドウラーネ大学 (UEM)

今年度の研修は、MIREMEからの要請および、昨年度の研修生からのアンケート結果を踏まえたプログラムを作成致しました。特にリモートセンシング研修では、基礎理論の講義とともに、画像解析と石炭賦存地域の地質図作成に必要な実用的実習を行うため、初級・中級クラスに分け、講義時間を大幅に増やし、ボツワナリモートセンターとのコラボレーションによるコースを新設致しました。

そのため、研修最終日の検討会では、研修生からコース全体を通して好意的な意見が多く出されるとともに、日本の協力を感謝する旨の意見がありました。また、研修生より日本の技術を高く評価し、更なる

知識の取得のために研修日程の増加の要望があるなど、日本の技術への期待が示されました。

閉講式はマプト市(於:VIP GRAND HOTEL)にて開催し、本事業のカウンターパートであるMIREMEから、Eugenio Simbine計画協力局長他、鉱物資源公社(EMEM)、UEM、在モザンビーク日本大使館、JICAモザンビーク事務所、モザンビークに投資する日本企業から総勢50名ほどが出席されました。

閉講式は、JOGMECを代表して石炭開発部佐藤石炭技術課長の開会挨拶で始まり、在モザンビーク日本大使館伊藤一等書記官からは、「モザンビークと日本の発展のため、本研修事業が継続して行われることを期待している」との挨拶を頂きました。

また、Eugenio Simbine計画協力局長からは、「モザンビークの資源の有効活用のために、本研修事業が必要不可欠なものである。また、JOGMECの協力を感謝している」との挨拶を頂きました。

JOGMECは2016年度も本事業を通じ、モザンビークの人材育成を行うことにより同国技術者のさらなる技術力向上に貢献するとともに、日本企業とモザンビークとの関係強化を図ってまいります。



リモートセンシング研修(ボツワナ)



フィールド研修(テテ州)



座学研修(マプト)



閉講式(VIP GRAND HOTEL)